

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	田代 英美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。

研究分野は都市社会学、生活構造論、公共社会学。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの協同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマである。グローバル化とローカル化が同時に進行する現在、私たちの生活の拠点としての地域社会、ともに生きていく拠り所となる協同性や公共性が改めて問われている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための課題を明らかにしたい。具体的な研究テーマとして、地域における公共交通や河川整備を取り上げて調査研究を行っている。また、分権化政策と市町村合併によって地域社会の枠組みと運営の仕方、合意形成過程がどのように変化したのかについても実証的な研究を継続していく予定である。

理論的な側面では、都市社会における生活問題分析の枠組みを再検討している。最近注目を集めているワーキングブアやワーク・ライフ・バランスは、実は生活構造論の中で常に議論されてきた問題である。これまでの研究に学ぶとともに、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

田代英美「遠方避難における生活再建と地域社会の課題」、『社会分析』43号（印刷中。2016年3月発行予定）。

田代英美・佐藤繁美『公共社会学入門「公共性研究A（公共性の社会学）テキスト』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、2015年4月。

田代英美「遠方個別避難における『被災』、『避難』、『生活再建』の構造」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、45-56、2015年2月。

②その他最近の業績

<学会発表>

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会的効果に関する実証的研究（1）——埼京線・埼玉高速鉄道・TXと北陸新幹線・九州新幹線を事例とする第一次報告」日本都市学会第62回大会（上越市）、2015年10月31日。「プログラムと報告要旨」12-13。

田代英美・伊東啓太郎・田中優太・山下絢子・揚野慎一郎・伊藤拓「“かわまちづくり”への参加に関わる住民の行動・意識要因——福岡県田川市における調査から」日本景観生態学会第25回全国大会（九州工業大学）、2015年6月6日。「講演要旨集」77。

田代英美「分権化政策のもとでのコミュニティの機能変化と自治体政策の位置」、日本都市学会第31回大会（熊本大学）、2013年9月15日。

<学会テーマ部会>

田代英美「テーマ部会 東日本大震災と都市社会学」討論者、日本都市学会第32回大会（専修大学）、2014年9月11日。

<調査研究報告書>

田代英美・石出千里・江川美紗・上種あゆみ・工藤夏美・杉元綾・中村汐里・早川怜香・松尾綾華・山内一成「彦山川調査第1次報告」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、73-86、2015年2月。

田代英美「原発避難・移住者への新たな支援活動の可能性」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第1号、13-21、2014年9月。

<教育実践報告>

田代英美・佐野麻由子「人間社会学部におけるアクティブ・ラーニングの実践」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、119-131、2016年2月。

<書評>

田代英美「書評 山下祐介・市村高志・佐藤彰彦『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐる』(2013、明石書店、336頁。)',『社会分析』42号、222-224、2015年3月。

③過去の主要業績

田代英美「東日本大震災による遠方への避難の諸要因と生活再建期における課題」、『西日本社会学会年報』第11号、63-75、2013年3月。

田代英美「地方公共交通の再編とコミュニティの情報提供機能」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第2号、65-77、2013年1月。

田代英美・佐藤繁美編『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、総ページ数77、2011年3月。

田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、51-70、2010年3月。

田代英美・植田美佐恵・佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14～16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書、2005年6月。

3. 外部研究資金

科学研究費基盤研究(B)「交通インパクトの社会的効果に関する研究——量と質とビジュアルの混合研究法——」平成26年度～平成29年度、研究分担者。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会、日本都市学会、日本景観生態学会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>

公共性研究A(公共性の社会学)・2単位・1年・前期、社会学概論・2単位・2年・前期、地域社会研究Ⅰ・1単位・2年、地域社会研究Ⅱ・1単位・2年、社会調査実習・2単位・3年・通年、地域社会分析法A(地域と生活)・2単位・3年・前期、地域社会学特講・2単位・3年、環境社会学・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

直方市都市計画審議会委員、川崎町地域公共交通会議委員、田川市地域公共交通会議委員、田川市経営評価改革推進委員会委員、添田「英峰塾」(添田町の中学生対象の学習支援事業)顧問

8. 学外講義・講演

<出前講義>

- ・佐賀県立佐賀西高等学校「『公共』とはなにか」2015年8月4日
- ・福岡県立鞍手高等学校「筑豊地域の人口——特徴を理解し、まちづくりの課題を考える——」2015年10月6日

9. 附属研究所の活動等